

経済情勢

(4月の経済指標を中心に)

全国、中国ともに、景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。先行きについては、世界的な金融引き締め等を背景とした海外経済の下振れや物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	緩やかに持ち直している
住宅投資	新設住宅着工戸数（4月）は前年を下回った
設備投資	機械受注額（4月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（4月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（4月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内の動きとなっている
雇用情勢	緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人を減らす動きもみられる

(中国)

個人消費	緩やかに持ち直している
住宅投資	新設住宅着工戸数（4月）は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額（4月）は前年を上回った
輸出	輸出金額（4月）は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内の動きとなっている
雇用情勢	緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人を減らす動きもみられる

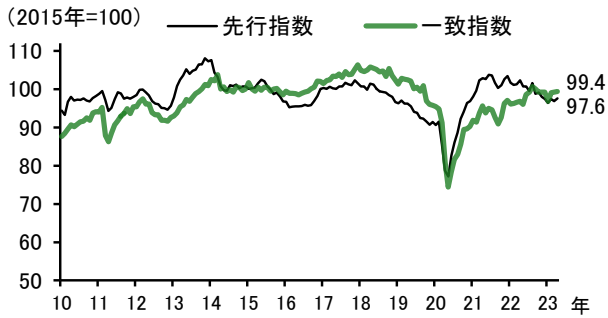
1. 景気動向指数 (C I) (4月)

(全国) 一致指数は3カ月連続で上昇している。

(中国) 一致指数は2カ月連続で低下している。

(全国)

- ・一致指数は99.4 (前月差+0.2ポイント) と3カ月連続で上昇。
- ・先行指数は97.6 (同+0.7ポイント) と2カ月ぶりに上昇。



C I 一致指数 (前月差)	0.2
----------------	-----

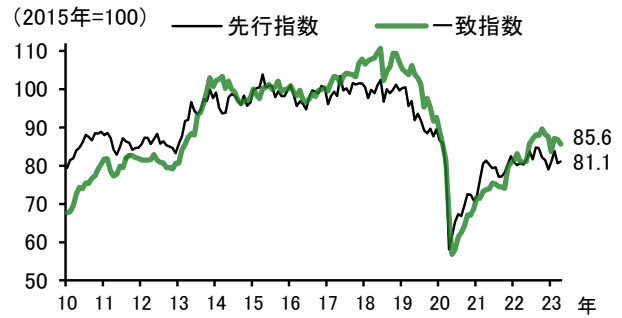
指標名	寄与度
輸出数量指数	0.25
耐久消費財出荷指数	0.13
投資財出荷指数 (除輸送機械)	0.11
有効求人倍率 (除学卒)	0.03
営業利益 (全産業)	0.01
鉱工業用生産財出荷指数	0.00
労働投入量指数 (調査産業計)	▲0.01
商業販売額 (卸売業)	▲0.06
鉱工業生産指数	▲0.06
商業販売額 (小売業)	▲0.22

C I 先行指数 (前月差)	0.7
----------------	-----

指標名	寄与度
消費者態度指数	0.58
中小企業売上げ見通しD I	0.43
最終需要財在庫率指数 (逆)	0.28
新規求人数 (除学卒)	0.18
東証株価指数	0.08
マネーストック (M2)	0.02
鉱工業用生産財在庫率指数 (逆)	▲0.02
日経商品指数 (42種総合)	▲0.18
新設住宅着工床面積	▲0.65
実質機械受注 (製造業)	
投資環境指数 (製造業)	

(中国)

- ・一致指数は85.6 (前月差▲1.2ポイント) と2カ月連続で低下。
- ・先行指数は81.1 (同+0.5ポイント) と2カ月ぶりに上昇。



C I 一致指数 (前月差)	▲1.2
----------------	------

指標名	寄与度
通関輸入額	▲1.11
生産財出荷指数	▲1.08
有効求人倍率	▲1.06
所定外労働時間 (製造業)	▲0.06
全産業業況判断D I	▲0.03
鉱工業生産指数	0.95
最終需要財出荷指数	1.06

C I 先行指数 (前月差)	0.5
----------------	-----

指標名	寄与度
建築物着工床面積	1.18
消費者態度指数	0.45
鉱工業製品在庫率指数 (逆)	0.23
実質百貨店販売額 (前年比)	0.19
生産財生産指数	▲0.04
銀行貸出残高 (前年比)	▲0.04
中小企業業況判断D I 次期見通し	▲0.05
新設住宅着工戸数	▲0.33
新規求人倍率	▲1.00

注：1. 景気動向指数 (CI) は景気変動の大きさやテンポ (量感) を測定することを目的としている。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の実況把握および将来予測に資するために作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

3. 全国と中国地域の景気動向指数は、採用している経済指標が異なるため、水準や前月差などを一概に比較することは適切ではない。

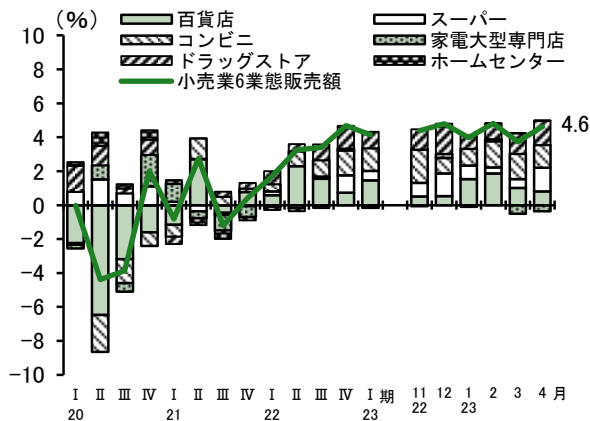
資料：全国は内閣府「景気動向指数 (速報)」、中国は当社で作成

2. 個人消費 (4月)

全国、中国ともに、緩やかに持ち直している。

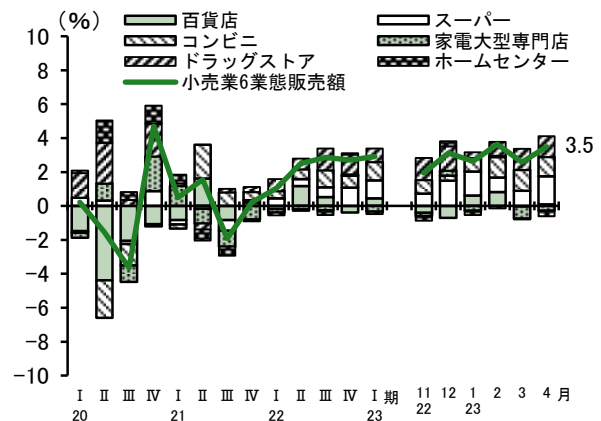
● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

(全国) スーパー、ドラッグストアなどが増加し、17カ月連続で前年比プラス(前年同月比+4.6%)。マスク着用ルールの緩和等から外出関連の需要が増加した。物価上昇の影響については、節約志向の高まりから買い上げ点数が減少しているものの、客単価の上昇に伴い、販売金額は増加傾向にある。



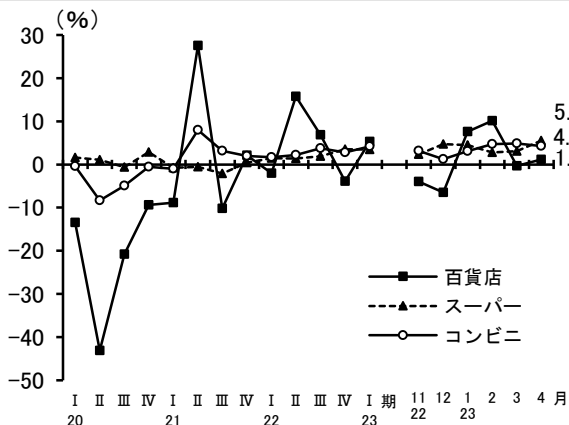
注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

(中国) スーパー、ドラッグストアなどが増加し、17カ月連続で前年比プラス(前年同月比+3.5%)。全国と同様、外出関連の需要が増加した。物価上昇の影響については、節約志向の高まりから買い上げ点数が減少しているものの、客単価の上昇に伴い、販売金額は増加傾向にある。



○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

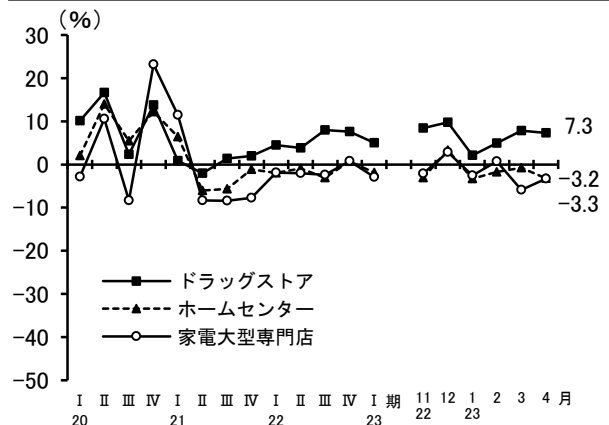
(中国)
 ・百貨店は、2カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+1.2%)。高級腕時計、貴金属など高額品が好調だったほか、化粧品など外出関連の需要が増加した。
 ・スーパーは、飲食料品、衣料品などが増加し、10カ月連続で前年比プラス(同+5.5%)。物価上昇に伴い客単価が上昇したほか、外出関連の需要が増加した。
 ・コンビニは、17カ月連続で前年比プラス(同+4.3%)。人流の回復や行楽需要の高まり等でおにぎり、飲料などが好調だったほか、物価上昇に伴い客単価が上昇した。



注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

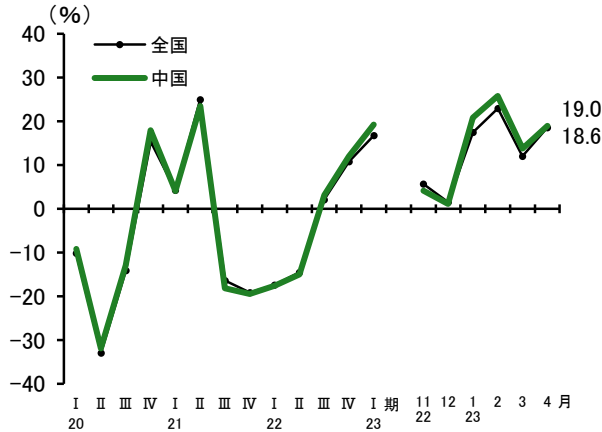
(中国)
 ・ドラッグストアは、新店・改装効果で食品が好調だったほか、外出需要で化粧品などが増加し、16カ月連続で前年比プラス(前年同月比+7.3%)。
 ・ホームセンターは、引き続きペット用品が好調だったものの、天候不順により園芸用品などが低調に推移し、4カ月連続で前年比マイナス(同▲3.2%)。
 ・家電大型専門店は、外出需要でデジタルカメラが好調だったものの、エアコン、小型テレビなどが低調に推移し、2カ月連続で前年比マイナス(同▲3.3%)。



● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 普通、軽、小型乗用車がいずれも増加し、8カ月連続で前年比プラス(前年同月比+18.6%)。前年が低水準だったことや、部材供給不足等による新車の供給制約が徐々に緩和されていること等から、高い伸びとなった。

(中国) 普通、軽、小型乗用車がいずれも増加し、8カ月連続で前年比プラス(同+19.0%)。全国と同様、新車の供給制約が徐々に緩和されていること等から、高い伸びとなった。

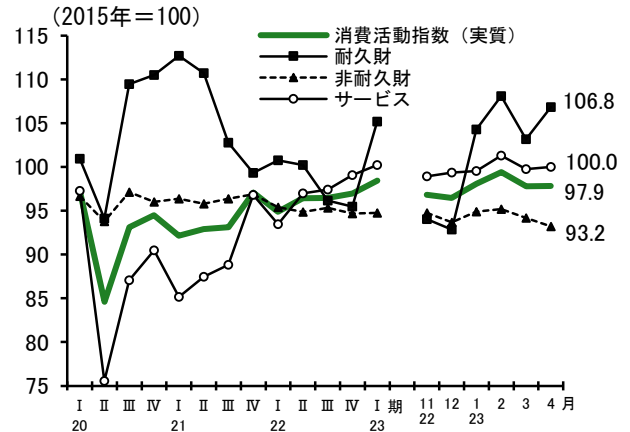


資料: 中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

● 消費活動指数(実質)

(全国) 消費活動指数(季節調整済)は97.9(前月比+0.0%)と2カ月ぶりに前月を上回った。

- ・耐久財は、前月から上昇した。部材供給不足等による新車の供給制約は徐々に緩和されている。
- ・非耐久財は、物価上昇に伴う節約志向の影響等を受けて低下した。
- ・サービスは、前月から若干上昇した。感染症の影響が和らぐ中、総じてみれば回復傾向にある。



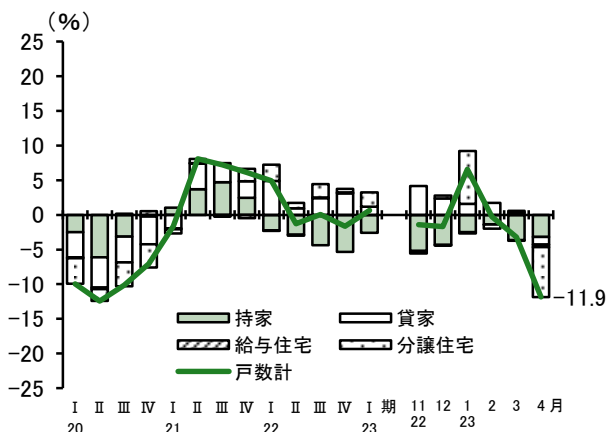
注: 1. 季節調整済指数
2. 消費活動指数の形態別ウエイトは、耐久財 8.9、非耐久財 40.5、サービス 50.7
資料: 日本銀行「消費活動指数」

3. 住宅投資(4月)

新設住宅着工戸数は、全国、中国ともに前年を下回った。

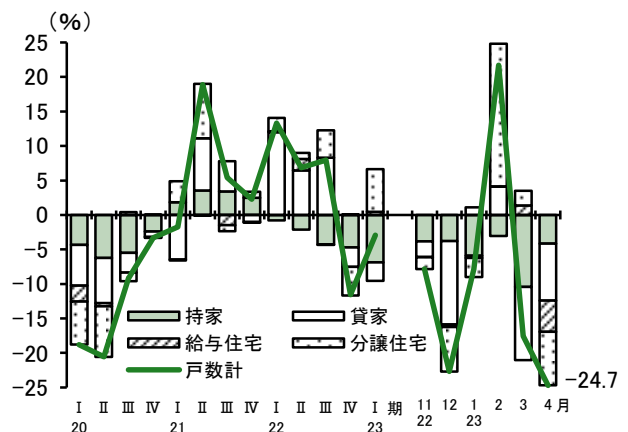
● 新設住宅着工戸数 [対前年伸び率]

(全国) 前年が高水準だったマンションを中心に分譲住宅が大幅減となったほか、持家、貸家、給与住宅も減少し、3カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲11.9%)。



注: 持家、貸家、給与住宅、分譲住宅は、新設住宅着工戸数の対前年伸び率に対する利用関係別寄与度
資料: 国土交通省「建築着工統計調査報告」

(中国) 貸家、分譲住宅、給与住宅、持家がいずれも減少し、2カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲24.7%)。



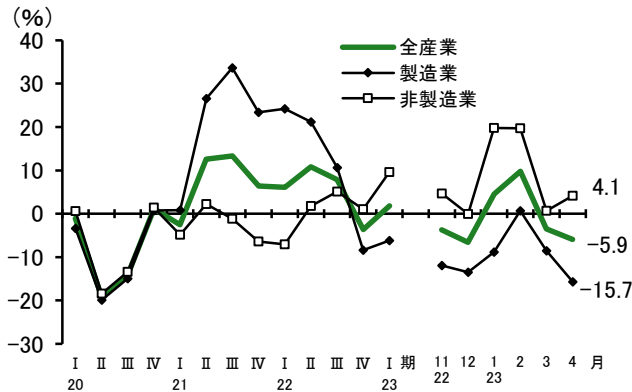
4. 設備投資・公共投資 (4月)

機械受注 (全国) は、非製造業が増加したものの、製造業が減少し、前年を下回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 2 カ月連続で前年比マイナス (前年同月比▲5.9%)。
- ・ 製造業 (同▲15.7%) は、電気機械が前月に引き続き 2 桁減となったほか、前月に高い伸びとなっていた造船業も大幅減となり、2 カ月連続で前年比マイナス。
- ・ 非製造業 (同+4.1%) は、建設業などが減少したものの、金融業・保険業、情報サービス業などが増加し、4 カ月連続で前年比プラス。



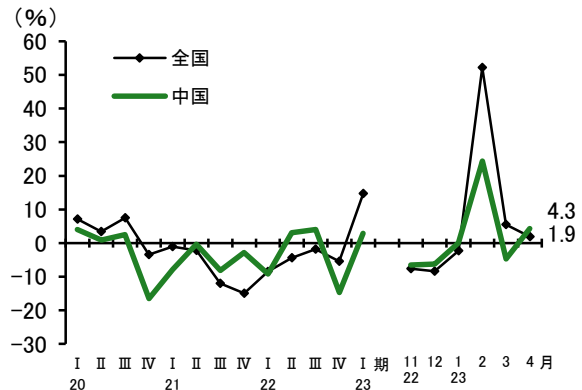
注：機械受注額は民需の合計であり、全産業、非製造業とも船舶・電力を除く数値

資料：内閣府「機械受注統計調査報告」、北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

● 公共工事請負額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 国、独立行政法人等からの発注が減少したものの、市区町村、地方公社、都道府県、その他からの発注が増加し、3 カ月連続で前年比プラス (前年同月比+1.9%)。
- ・ (中国) 独立行政法人等、県からの発注が減少したものの、市町村、国、その他公共的団体からの発注が増加し、2 カ月ぶりに前年比プラス (同+4.3%)。

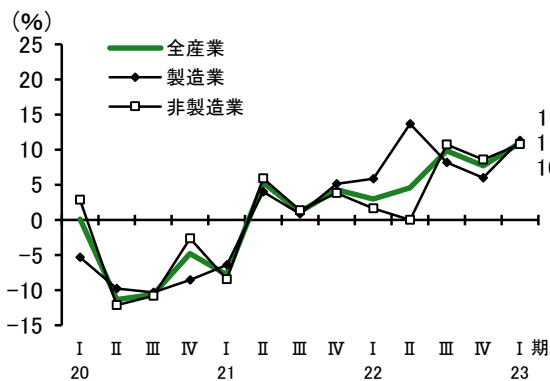


● 法人企業統計 (2023年1-3月期)

設備投資額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・ 1-3 月期の設備投資額は、8 四半期連続の前年比プラス (前年同期比+11.0%)。
- ・ 製造業は 8 四半期連続のプラス (同+11.3%)。
- ・ 非製造業は 3 四半期連続のプラス (同+10.8%)。



注：1. 金融業・保険業を除くベース

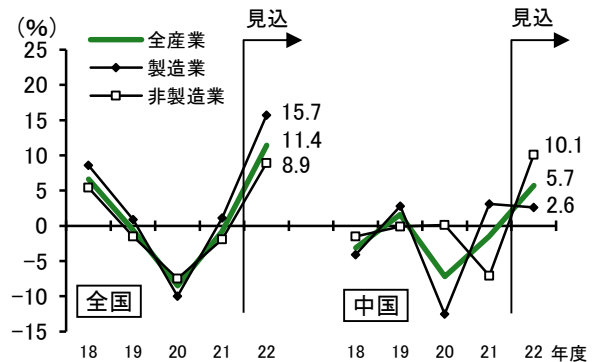
2. ソフトウェア投資額を含む

資料：財務省「法人企業統計」

● 企業短期経済観測調査 (日銀短観 2023年3月調査)

設備投資額 [対前年伸び率]

- ・ (全国) 2022 年度の設備投資は、4 年ぶりに前年を上回る見込み (前年度比+11.4%)。製造業、非製造業ともにプラス。
- ・ (中国) 2022 年度の設備投資は、3 年ぶりに前年を上回る見込み (同+5.7%)。製造業、非製造業ともにプラス。



注：1. 企業短期経済観測調査 (短観) は四半期ごとに公表されている

2. 土地投資額を含む、ソフトウェア投資額と研究開発投資額は含まない

資料：日本銀行「短観 (全国企業短期経済観測調査)」、
日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」

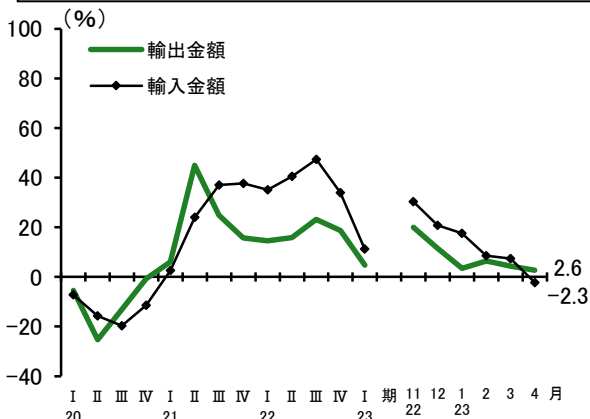
5. 輸出・輸入(4月)

輸出金額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

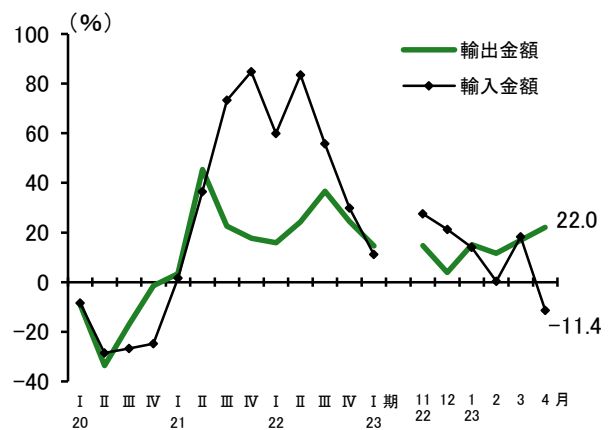
- ・輸出金額は26カ月連続で前年比プラス(前年同月比+2.6%)。品目別にみると、プラスチック、半導体等製造装置などが減少したものの、部材供給不足の影響緩和等により自動車が高い伸びとなったほか、科学光学機器、船舶などが増加した。
- ・輸入金額は27カ月ぶりに前年比マイナス(同▲2.3%)。品目別にみると、資源価格の下落等により、原粗油、液化天然ガス、非鉄金属などが減少した。



注：1. 輸出金額、輸入金額は円ベース 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
資料：財務省「貿易統計」、神戸税関「中国圏・各県貿易統計」

(中国)

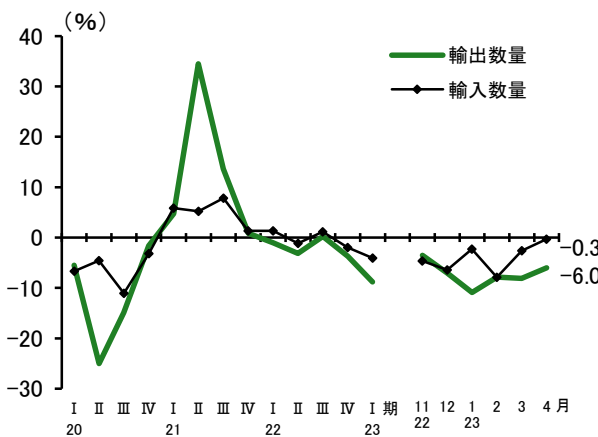
- ・輸出金額は18カ月連続で前年比プラス(前年同月比+22.0%)。品目別にみると、鉄鋼、有機化合物などが減少したものの、部材供給不足の影響緩和等により自動車が高い伸びとなったほか、半導体等製造装置、船舶などが増加した。
- ・輸入金額は27カ月ぶりに前年比マイナス(同▲11.4%)。品目別にみると、資源価格の下落等により、原粗油、石油製品(揮発油等)、鉄鉱石などが減少した。



● 輸出・輸入数量 [対前年伸び率]

(全国)

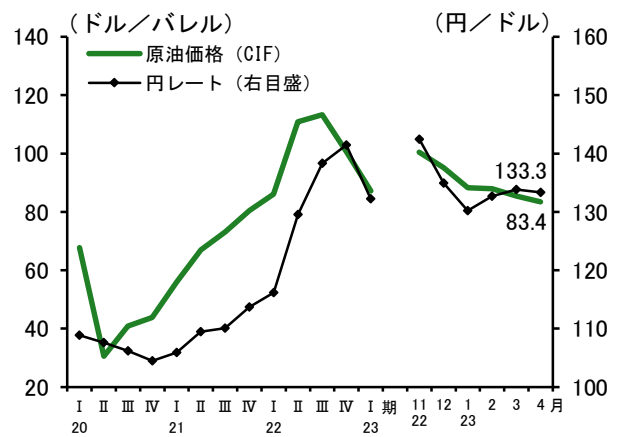
- ・輸出数量は7カ月連続の前年比マイナス(前年同月比▲6.0%)。
- ・輸入数量は6カ月連続の前年比マイナス(同▲0.3%)。



注：1. 輸出数量、輸入数量とも2015年=100とした指数 2. 輸出確報；輸入速報(9桁)
3. 原油価格は全日本通関CIF価格
4. 円レートは東京外国為替市場の銀行間中心レートの月中平均値
資料：財務省「貿易統計」

● 原油価格・円レート

- ・原油価格は83.4ドル/バレルと前年に比べ24.4ドル低下(前月に比べ2.0ドル低下)。
- ・円レートは133.3円/ドルと前年に比べ7.3円の円安(前月に比べ0.5円の円高)。



6. 生産動向 (4月)

全国、中国ともに、横ばい圏内の動きとなっている。

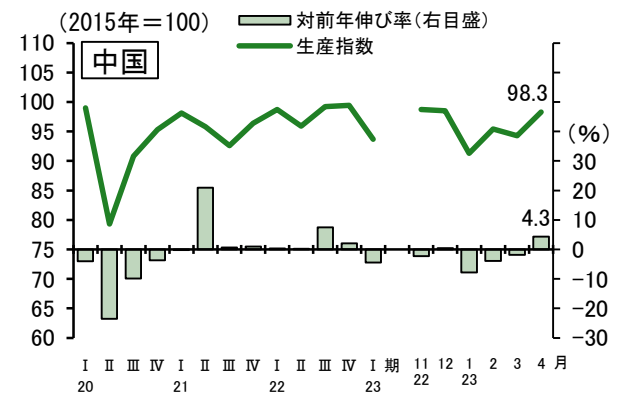
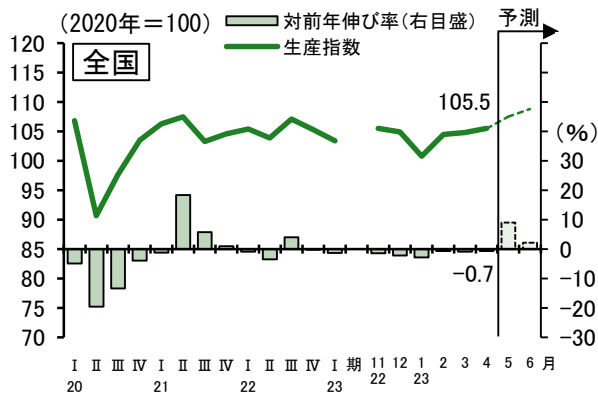
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

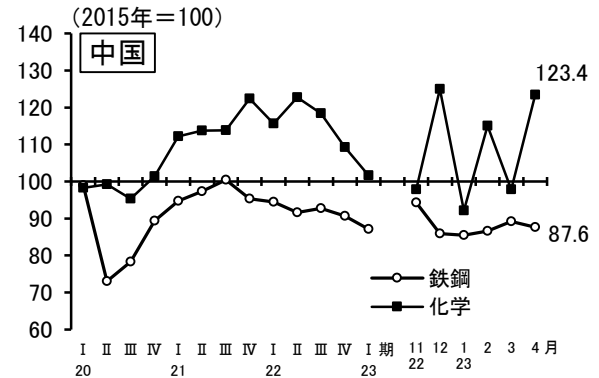
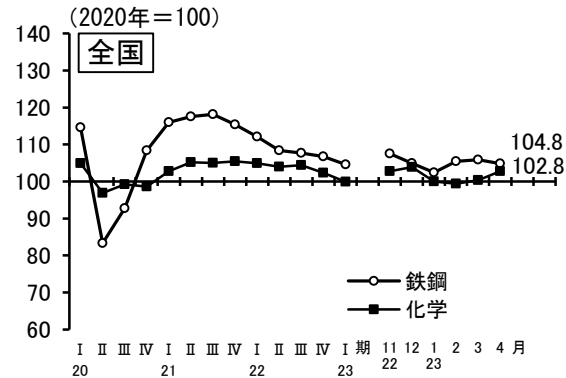
- ・生産指数 (季節調整済) は、105.5 (前月比+0.7%) と3カ月連続で前月を上回った。業種別にみると、鉄鋼が低下したものの、電子デバイスなど一部品目の前月の生産水準が低かった電気機械が上昇したほか、部材供給不足の影響緩和等により自動車が増加した。
- ・生産指数 (原指数) は前年同月比▲0.7%と6カ月連続のマイナスとなった。

(中国)

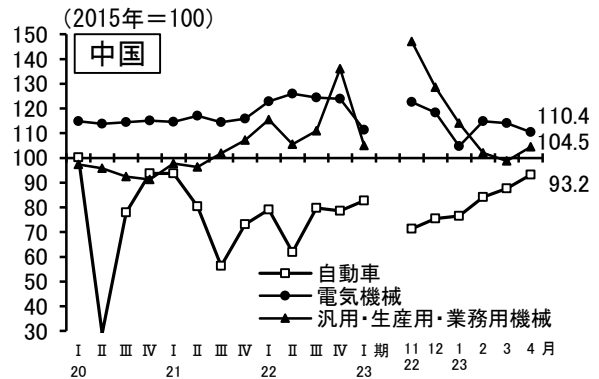
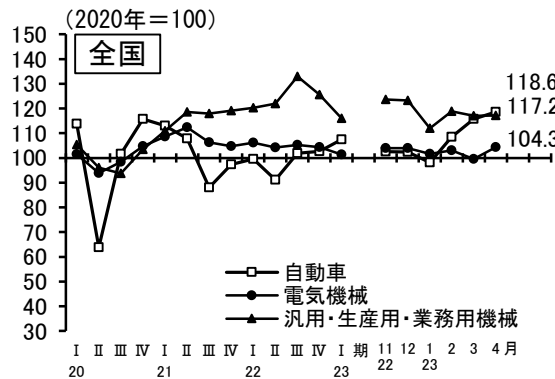
- ・生産指数 (季節調整済) は、98.3 (前月比+4.2%) と2カ月ぶりに前月を上回った。業種別にみると、電気機械、鉄鋼が低下したものの、前月に大きく低下した医薬品を中心に化学が高い伸びとなったほか、部材供給不足の影響緩和等により自動車が増加した。
- ・生産指数 (原指数) は、自動車を中心に前年の水準が低く、前年同月比+4.3%と4カ月ぶりのプラスとなった。



● 鉱工業生産指数 (素材)



● 鉱工業生産指数 (機械)



注：1. 生産指数は季節調整済指数 2. 生産指数の対前年伸び率は原指数による 3. 予測値は「製造工業生産予測調査」の製造業の値を基に算出
 4. 中国の最新月は速報値 5. 2023年4月確報分より、全国の鉱工業指数の基準年が2015年から2020年に改定された
 6. 「電気機械」は1995年基準の業種分類を適用 (電気機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業の合計)
 7. 「汎用・生産用・業務用機械」は全国では2010年基準の業種分類を適用 8. 「自動車」は中国では「輸送機械工業 (自動車・同部品)」
 資料：経済産業省「鉱工業 (生産・出荷・在庫) 指数確報」「製造工業生産予測調査」、中国経済産業局「中国地域鉱工業生産動向」

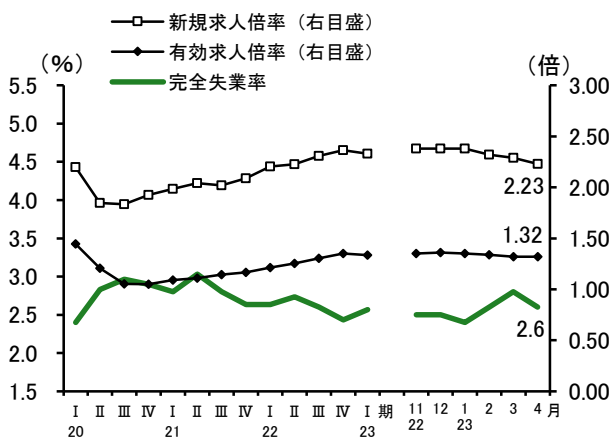
7. 雇用情勢(4月)

全国、中国ともに、緩やかに持ち直しているものの、一部の産業では求人減らす動きもみられる。

● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

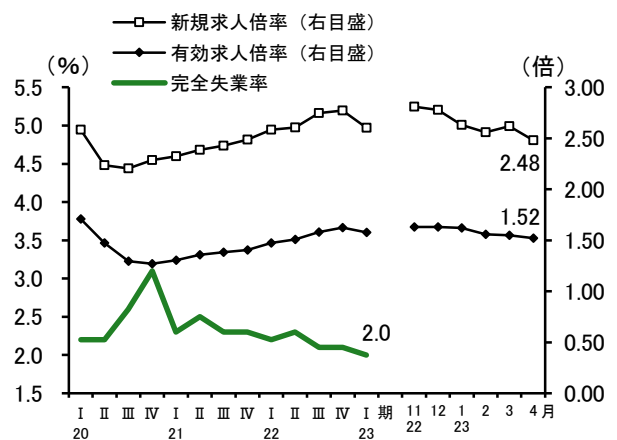
(全国)

- 完全失業率は2.6% (前月差▲0.2ポイント) と3カ月ぶりに低下した。
- 有効求人倍率は1.32倍 (同±0.00ポイント) と前月から横ばいとなった。
- 新規求人倍率は2.23倍 (同▲0.06ポイント) と3カ月連続で低下した。

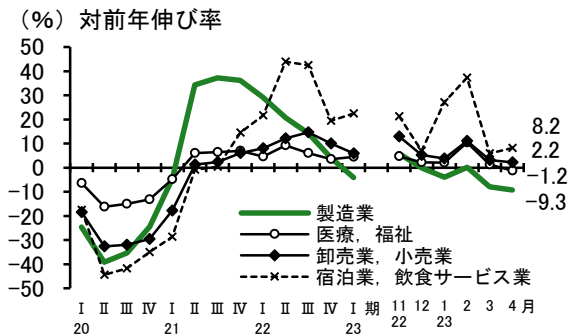


(中国)

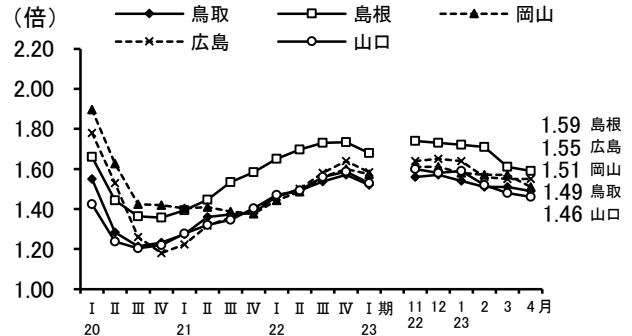
- 有効求人倍率は1.52倍 (前月差▲0.03ポイント) と4カ月連続で低下した。
- 新規求人倍率は2.48倍 (同▲0.14ポイント) と2カ月ぶりに低下した。



主要産業における新規求人数の推移 (全国)



有効求人倍率の推移 (中国5県)

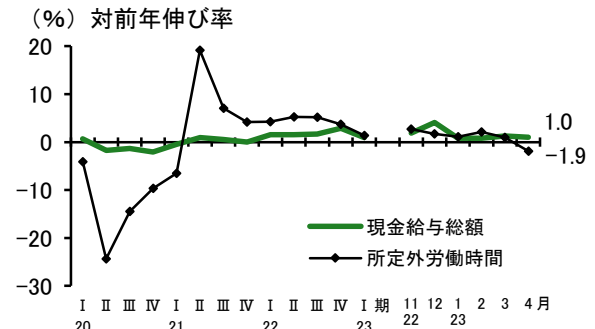


注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- 現金給与総額は16カ月連続で前年比プラス (前年同月比+1.0%)。
- 所定外労働時間は25カ月ぶりに前年比マイナス (同▲1.9%)。うち製造業は4カ月連続で前年比マイナス (同▲6.1%)。



注：1. 事業所規模5人以上の指数 (2020年=100) の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」